

平成20年度 冬の学習会 を開催！

1月24日(土) 小雪舞う京都で、「京都テルサ」を会場に平成20年度冬の学習会が、京都聴覚障害教育研究会と共催で開催され、100名以上の先生方の参加がありました。講演は2本あり、1本は関東労災病院 耳鼻咽喉科の杉内智子先生による「乳幼児期からの難聴とその支援」、もう1本は福岡市立博多小学校の平島ユイ子先生による「通常学級での学級担任と学級児童と難聴児本人に難聴の理解をすすめるために」という講演でした。

『乳幼児期からの難聴とその支援』

講師:関東労災病院 耳鼻咽喉科 感覚器センター
杉内 智子 先生

耳鼻科医としての目で、新生児聴覚スクリーニングの現状や母子に対する支援や対応について、数多くの事例をもとにお話をしてくださいました。

関東労災病院では乳幼児聴覚スクリーニングでリファー(要再検)が出た場合に、1カ月検診の際に両親に知らせています。出産後1週間で聴覚に障害がある可能性を伝え、不必要な動揺を親に与えて母子関係が不安定になることを防ぐ効果があるそうです。1カ月検診のときにはもう親にもそのことを受け止める余裕ができているとのことでした。

また、関東労災病院の感覚器センターには「母と子の聴覚言語教室」が設けられ、SCS法(Speech therapy based on Communication by Sato)で重度・高度難聴児を対象に就学前まで指導をされています。そこでは発達段階に応じた語りかけによる児との対話の中で指導をすることで、基本的な生活習慣を習得させています。また、徹底した聴覚活用を行い、乳幼児からFM補聴システムを使って指導をされているそうです。就学前の難聴児に対する療育という点では聾学校の乳幼児指導と重なる部分が多いのですが、お互いに連携していくことができれば良いと感じました。



『通常学級での学級担任と学級児童と難聴児本人に難聴の理解をすすめるために』

講師:福岡市立博多小学校

平島 ユイ子先生

博多小学校の「きこえとことばの教室」担当者として、日頃から関わっている児童生徒の在籍校で行っている「難聴の理解をすすめるため」の研修についてお話しいただきました。学級担任、学級児童、また難聴児本人と3つの視点から、難聴理解のためのアプローチの実践をワークショップ形式で行い、参加された先生方とのやりとりを交えながら、わかりやすい形ですすめられていきました。担任の先生向けの、難聴シミュレーションを通しての研修、学級児童への支援を学ぶ理解授業の進め方や必要な内容などについて実体験しながら研修することができました。特に、難聴児本人が自分のきこえや、きこえにくさからおこる課題を理解しつつ、学級での対人関係の課題への具体的なやりとりの学習場面を見ることができたのは有意義でした。

日頃から、担当者研修や学級での理解学習などを行ってはいるものの、細かい注意事項やねらいなどについては、曖昧なままになっている、実際に体験を通して、いろいろな観点からの見方や体験の仕方などを学ぶことができました。今後、子どもたちや担当者と関わるときに、明日からすぐに役に立つ内容だったと思います。



来年度の予定

平成21年度の予定が1月の代表委員会で審議されました。11年目を迎えて、新しい企画や、取り組みも検討していきたいと、話し合われました。ぜひ、ご意見、ご希望などもお寄せください。講演会・講習会とも例年通り実施する予定です。皆さんふるってご参加ください。

第1回代表委員会	平成21年 5月15日(金)大阪市立聾学校
第2回代表委員会	平成21年 8月19日(水)大阪府立生野聾学校
第11回講演会・講習会	平成21年 8月20日(木)府立社会福祉会館 8月21日(金)大阪府立生野聾学校
秋の講演会	平成21年10月31日(土)大阪市内
第3回代表委員会	平成22年 1月29日(土)滋賀県担当
冬の学習会	平成22年 1月30日(日)滋賀県担当

各地の研究会等の予定

補聴器勉強会	6月
近聾研 基本問題研	8月10日(土) 大阪市内
全日聾研	10月
聴覚医学会	10月



近畿教育オーディオロジー
研究協議会事務局

事務局長 中井 弘征

〒639-1122

TEL:0743-56-2921

奈良県大和郡山市丹後庄町456

FAX:0743-56-8833

奈良県立ろう学校内

メール:h-nakai@indigo.plala.or.jp